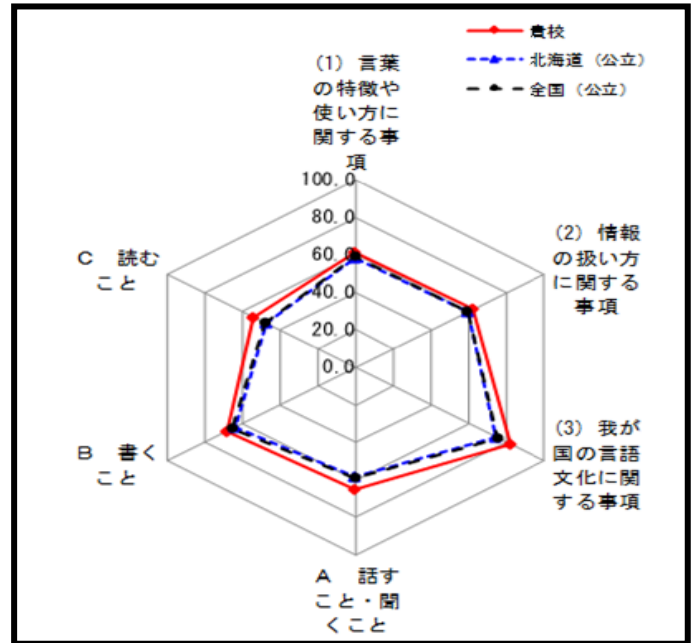


R6 全国学力・学習状況調査の結果について

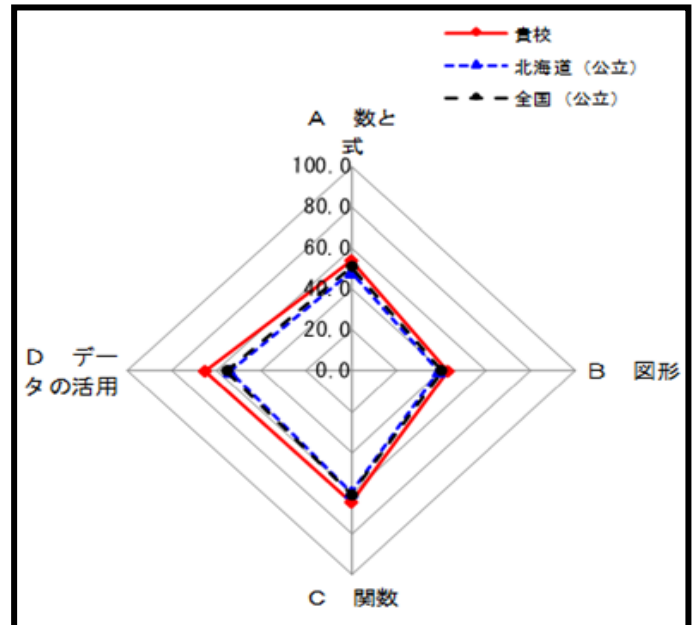
国語

- ◎すべての領域において、全道・全国平均を上回る結果となりました。
- 1・2年生で学んだ知識技能や、登校してすぐに行っている「朝読書」の成果が表れた結果となりました。
- ▲読んだ内容を要約したり、条件に沿って説明したりする問題の正答率が低かったです。今後授業において、そのような学習課題を多く設定し、改善を目指していきます。



数学

- ◎すべての領域において、全道・全国平均を上回る（または同値）結果となりました。
- 基礎的な計算や数学的知識を問う問題に関して、よい結果が見られました。毎回の授業において、繰り返し課題に取り組んだ成果が表れました。
- ▲解を求める過程や図形の証明を記述する問題の正答率が低かったです。今後の授業では、正しい数値等を求めるだけでなく、なぜそのような解に至ったのかを互いに説明し合う「協働的な学び」を充実させていきます。



生徒質問紙

- ① 授業や家庭学習において、タブレット端末を活用した授業が進んでいる結果となりました。今後もそれを効果的に活用した「個別最適な授業」や「協働的な学び」を通して、自らの考えや思い深められるような授業を、教科の枠を越えて、全教育活動の中で行っていきます。
- ② 「自分にはいいところがあると思う」「先生は自分の良いところを認めてくれている」といった自己有用感に関する項目上位評価が多い結果でした。これは、学力向上や良好な人間関係作りには欠かすことのできない要素です。今後も様々な場面で意図的に“生徒同士で認め合う”“教師や保護者から温かい言葉で認められる場面”を設定していきます。
- ③ 奉仕や地域貢献に興味関心のある生徒が多い結果となりました。今年度は昨年度以上にボランティア活動を多く設定しています。生徒が参加しやすい環境づくりを進めることで、さらに奉仕活動に対する興味関心を高めるとともに、充足感や自己有用感を得ることもことができるのではないかと考えています。
- ④ 家庭学習に積極的に取り組んでいる生徒とそうではない生徒が二極化している結果となりました。休日等に生徒が自ら考え機に向かえるような仕掛けを考えることで、家庭学習の時間も伸び、さらなる学力向上が見込めるのではないかと考えています。